

## 助け助けられ

土岐市教育委員会 教育委員 大野 良子

数年前の冬の寒い夜のこと。

いつもは通ることのない国道から一本入った道を22時過ぎに通りかかると、上着も手袋もましてやマスクもせず、ゆっくり歩いている老婆が前から。

車を止めて「どこに帰るのですか」と私。

「ここはどこ？家がわからなくなっちゃった・・・」と老婆。

名前と生年月日は言えたものの、土地勘が全くなく、すぐに後部座席に案内。初めて携帯から110番にかけたが画面が真っ赤！これにも驚きながら、老婆の氏名と場所の説明をして、待つこと30分。夜の暗く寒いところに立たせておくわけにもいかず、長いときでした。

二人の警察官が来られ、簡単な事情聴取。私は免許証の提示を求められ。徘徊はどうも常習的な感じ。自宅に戻ったのが23時近く。翌日は早朝から雪。その老婆、帰る家が見つかってホッと。

一週間たっても、その件に関して何の連絡もなく生活安全課に電話。

「あの日の老婆は、どうなりましたか？相手方の家族もなしのつぶてで！」・・・「あ～」と、警察事務。

それから3か月後、長男から電話「ひとつ前の駅で降りちゃった」と言葉がしどろもどろ。店の看板を目印にお互いそこに向かって、私は車を走らせもうすぐ駅にというところで、自宅から携帯に。「今、警察から連絡あり。ひとつ後の駅をパトロール中、長男を見つけ自宅まで送ってくれるそう」

飲酒の限量量がわからず失敗して、駅のデッキから降り、ふらふらと川沿いを歩いているところで警察に保護されたというもの。

長男は、自宅に移送していただいた頃には、酔いもほとんど醒め、警察にお礼を言っていた。

認知徘徊も酔っ払いも、家族が管理しないと世間に迷惑をかけることに。

助け助けられ、怪我もなく無事に自宅に戻れたことに感謝です。

## バランス

坂祝町 教育委員 古田博英

私の好きなテレビコマーシャルがあります。

「宇宙人ジョーンズ地球調査中」と題された、缶コーヒーのコマーシャルです。

トミーリージョーンズというアメリカ人の男優が主人公で、宇宙人ジョーンズがいろいろな職場で働きながら地球の様子を観察して、その結果を自分の星に報告するという設定で、働く人たちを温かく見守るという内容になっています。

いろいろな職場が舞台になっていますが、そのうちの1つに教育現場が舞台になったものがありました。

「教育は全身でぶつかっていかなくてはならない。」と考える、心身ともに強そうで元気いっぱいの教師が、力強く生徒と向き合い指導しています。もじもじと恋の告白をしようとしている生徒には、「声が小さい。」と気合を入れ、授業に集中できない子どもには髪の毛が剃りあがる勢いでチョークを投げつけます。ところがその指導が厳しすぎると複数の保護者が校長室に抗議に押しかけます。そして、最後に宇宙人ジョーンズは「この惑星の教育は加減が難しい。」と調査報告をします。

去年の11月11日に海津市で開かれた県の市町村教育委員会連合会の研究総会で、横山連合会長があいさつの中で「教育は規律と寛容のバランスの上にある。」という言葉が言われた時、私はこの宇宙人ジョーンズの報告の言葉を思い出しました。

そして、いろいろな持ち味をお持ちの先生方が、御自分の持ち味を生かしながら、他の先生方のいいところを取り入れ、いいバランス、加減をもって子どもたちと接していただくといいなあというようなことを思いました。